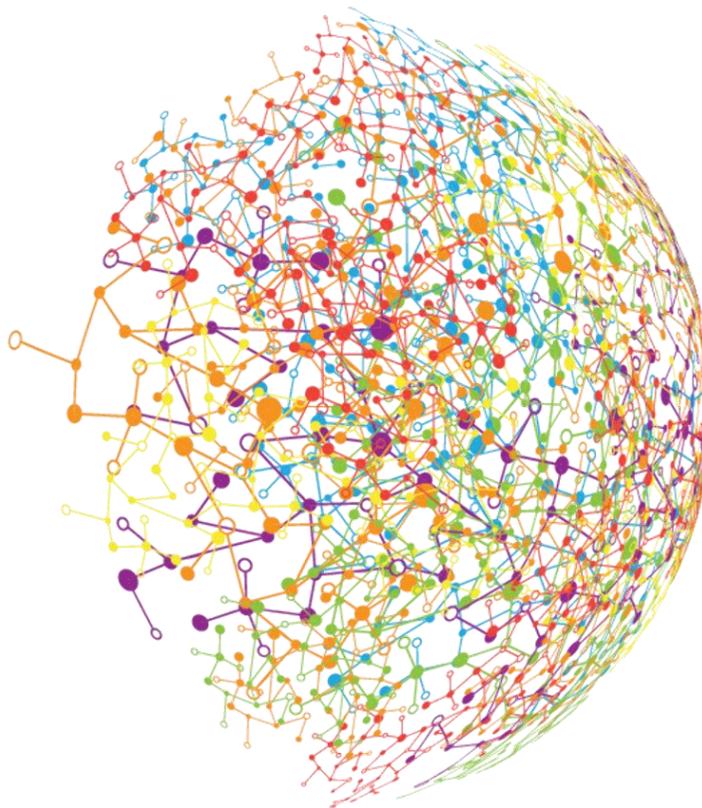


JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業のご応募を検討される企業様向けのオンライン研修

2024年7月10日

Deloitte.

デロイト トーマツ



企業向け研修：Day②検討編

開発課題と自社技術のマッチング方法

2024年7月10日

研修の全体像

「Day②検討編」では、開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、JICA Bizで実施する事業計画の立案を進めたいとお考えの企業様に対して、開発課題と自社技術のマッチング・活用事例や事業の検討方法などをお伝えします

開催日時	7月8日（月） 13:00～16:30	7月10日（水） 13:00～17:00	7月12日（金） 13:00～17:00
研修名	Day①理解編 開発途上国ビジネスの魅力と JICA事業	Day②検討編 開発途上国の課題・ニーズと 事業立案	Day③実践編 企画書の書き方とプレゼンのポイント
対象 企業像	<ul style="list-style-type: none"> 開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、JICA事業を活用して開発途上国でのビジネス展開を志向する企業様 	<ul style="list-style-type: none"> 開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、<u>JICA Bizで実施する事業計画の立案を進めたい企業様</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、<u>具体的に企画書の書き方を知りたいとお考えの企業様</u> 既に途上国ビジネスを進めており、<u>資金調達先やカウンターパートに刺さるプレゼン技法を習得したい企業様</u>
狙い・ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 途上国ビジネスの魅力や実態を知り、自社で取組む際のイメージを付ける 途上国ビジネスを進めるにあたり、JICA事業の活用方法やJICAとの連携方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国のニーズに合わせた自社製品の提供価値を整理する 現地ニーズに合わせた、開発課題の解決に資する事業の立案方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 提案事業/製品について評価ポイントを踏まえて企画書の作成方法を理解する ビジネスを推進するにあたり重要なスキルの一つであるプレゼン技法についてコンテンツ/構成から伝え方まで理解する
講義内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 13:00～14:10：開発途上国ビジネスの実態と魅力 14:20～15:20：ビジネスを通じたインパクト創出：メリットと考え方 15:30～16:30：JICA制度と組織の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 13:00～14:30：開発課題と自社技術のマッチング方法 14:40～15:50：JICA Biz 採択企業による事業の活用事例 16:00～17:00：開発課題に即した事業立案方法 	<ul style="list-style-type: none"> 13:00～15:00：企画書の書き方と評価のポイント 15:10～16:40：途上国ビジネス推進のためのプレゼン技法 16:40～17:00 全体に関するQ&A

Day② 検討編「開発課題と自社技術のマッチング方法」の研修概要

本研修は途上国へのビジネス展開を志向する企業様に対して、開発課題の解決の際に自社技術をどう活用していけばいいの
かの検討方法を理解いただき、開発途上国で実施する事業を明確化していただくを目的としています

実施方法

実施形態	セミナー形式 ※本日の研修はオンデマンド視聴用に録画をいたします。
研修の狙い	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業の特徴や提供価値と活用メリット、企業による活用事例を理解する ● 開発途上国への進出が先進国への進出と異なる点を理解する ● 途上国進出を行う上で現地のニーズに合わせた製品を検討することの重要性を理解し、ニーズの確認やビジネス化に向けて「中小企業・SDGsビジネス支援事業」を活用するイメージをつける
登壇講師	<ul style="list-style-type: none"> ● 有限責任監査法人トーマツ 鎌田 滋彦 ● 国際協力機構(JICA) 民間連携事業部計画・連携企画課 安井 加奈

タイムテーブル

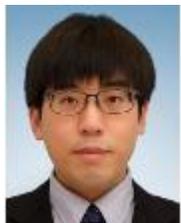
開始	～	終了	ラップ	内容
13:00	～	13:05	5分	本研修の目的
13:05	～	13:30	25分	本事業の概要と活用メリット、活用企業事例
13:30	～	13:40	10分	市場調査の重要性
13:40	～	14:15	35分	個人ワーク
14:15	～	14:20	5分	課題発信の紹介
14:20	～	14:30	10分	Q&A

本日の研修には個人ワークがあります。
お手元に紙数枚と筆記具をご用意ください。

講師紹介

2022年度からの「中小企業・SDGsビジネス支援事業(ガバナンス・平和構築分野)」のJICAコンサルタントをしている有限責任監査法人トーマツのメンバーが本研修を実施します

講師



鎌田 滋彦

有限責任監査法人トーマツ
リスクアドバイザー事業本部
ガバナメント&パブリックサービス
コンサルタント

■ 経歴

- 大学にて国際関係論を専攻
- 在学中に国連ボランティア(UNV)として国連開発計画(UNDP)の東ティモール事務所に派遣され、現地の産業振興等の業務に従事
- 自動車メーカーの調達部門にて新車の開発プロジェクトのマネジメントやソーシング、サプライヤーの企業評価/財務分析、原価低減活動に従事
- 当法人に入所後、日本のスタートアップや中小企業の途上国進出支援・海外展開支援や海外のスタートアップの都内誘致活動に従事

ファシリテーター



中根 望

有限責任監査法人トーマツ
リスクアドバイザー事業本部
ガバナメント&パブリックサービス
シニアコンサルタント
情報処理安全確保支援士
応用情報技術者

■ 経歴

- 国内システムインテグレーターにて製造業、商社、金融機関向けの各種システム導入に従事。在籍中にJICA青年海外協力隊(バングラデシュ)を経験
- アビームコンサルティング株式会社(ODA調査や民間企業の海外展開支援に従事)を経て現職

ファシリテーター



竹内 知成

有限責任監査法人トーマツ
リスクアドバイザー事業本部
ガバナメント&パブリックサービス
シニアマネジャー
ICT for Development修士、ITストラテジスト
TOEIC 960

■ 経歴

- 国内システムインテグレーター、JICA青年海外協力隊(エチオピア)、在エチオピア日本大使館勤務を経て、マンチェスター大学大学院に進学(情報通信技術を活用した国際開発(ICT for Development)修士課程)
- JICA職員として、情報システム部、経済基盤開発部、ガーナ事務所などで、情報通信分野を中心に多くのODA案件形成や運営管理に従事
- アビームコンサルティング株式会社(ODA調査や民間企業の海外展開支援)を経て現職

「本事業の概要と活用メリット、活用企業事例」

スピーカー

安井 加奈氏

(JICA 民間連携事業部 計画・連携企画課)

「市場調査の重要性」

「中小企業・SDGsビジネス支援事業」では対象国でのニーズ確認
やビジネス化(ビジネスモデル検証等)を支援しています

日本で売れる「良いモノ」を開発途上国でそのまま売ればいいのか
そんな疑問がわいてきます

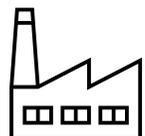
それでは、なぜニーズの確認が必要なのでしょう
なぜビジネスモデルを検討する必要があるのでしょうか

日本(先進国)と開発途上国で製品/技術/サービスのニーズに
どのような違いがあるのかを考えてみましょう



開発途上国に合わせた製品カスタマイズの必要性

開発途上国の環境や状況、開発課題を理解したうえで、現地の市場やニーズに合わせた製品/技術/サービスを提案しなければ、現地市場への参入は難しい

ビジネスの概要	直面した問題
電気を使った 浄水システム 	現地の 停電時間が長く 、浄水できない時間が当初想定より長いことが分かった。浄水できない時間を短縮するため、 バッテリーを用いた浄水方式を計画するが、コストが見合わない可能性が出てきた。
栄養食品 	日本で販売していた栄養食品を現地に導入しようとしていた。しかし、 現地の食生活が保守的 であったため、栄養強化のコンセプトは維持しつつも 別の食品 での販売を模索する必要が出てきた。
食品製造 	原料を現地で調達することを予定していたが、 品質が一定でない ため、輸入等を行う必要が出てきた。
医療機器 	現地でBtoCの販売を想定していたが、 価格が高い ことから需要がないことがわかり、病院へのリースモデルに切り替えるなど、 販売方法の変更が必要 となった。
ヨーグルト食品 	水衛生環境が悪いことで発生していた 下痢への対策と現地女性の就業支援の一環でヨーグルト生産を開始 した。しかし、酸味がある味は現地でなじみがなく、「 腐っている食べ物 」としてのイメージを改める必要が出てきた。

多様な開発途上国の環境

また、日本語から連想する環境と現地の様子が必ずしも一致しないことも考慮する必要があります。

東ティモール第二の都市(バウカウ)の「市街地」



NGOによる「英語教室」



東ティモールの「温泉」



デイリの空港付近から見る「都市」



クイズ！(都市部)

以下の写真は片方は先進国、もう片方は開発途上国の写真です。
どちらが開発途上国か考えてみましょう。



クイズ！(農村部)

以下の写真は片方は先進国、もう片方は開発途上国の写真です。
どちらが開発途上国か考えてみましょう。



クイズ！(大学)

以下の写真は片方は先進国、もう片方は開発途上国の写真です。
どちらが開発途上国か考えてみましょう。



！気を付けたいこと！

「開発途上国」という国はありません

**「途上国市場」と一言で言っても、
地域や国ごと、また同一の国でも都市部と農村部では
大きく環境が異なります**

**偏見やイメージで開発途上国を理解するのではなく、
現地の実情を理解したうえで事業を進めることが必要です**

**そのうえで現地に合わせた製品開発・ビジネスモデルの検討を
行うことが、途上国ビジネス成功の第一歩です**

「個人ワーク」

途上国の市場やニーズを理解しなければ、
現地に受け入れられることはありません。

しかし、途上国の情報を網羅的に入手することは困難です。
自社のビジネスの在り方を「仮説で」考え、
その検証を行いつつ、製品/技術/サービスとビジネスモデルを
ブラッシュアップするプロセスが有効です。

まずは自社製品を開発途上国に展開するにあたって
検討しなければいけないことは何なのか本ワークを通じて
「仮説」で考えてみましょう。

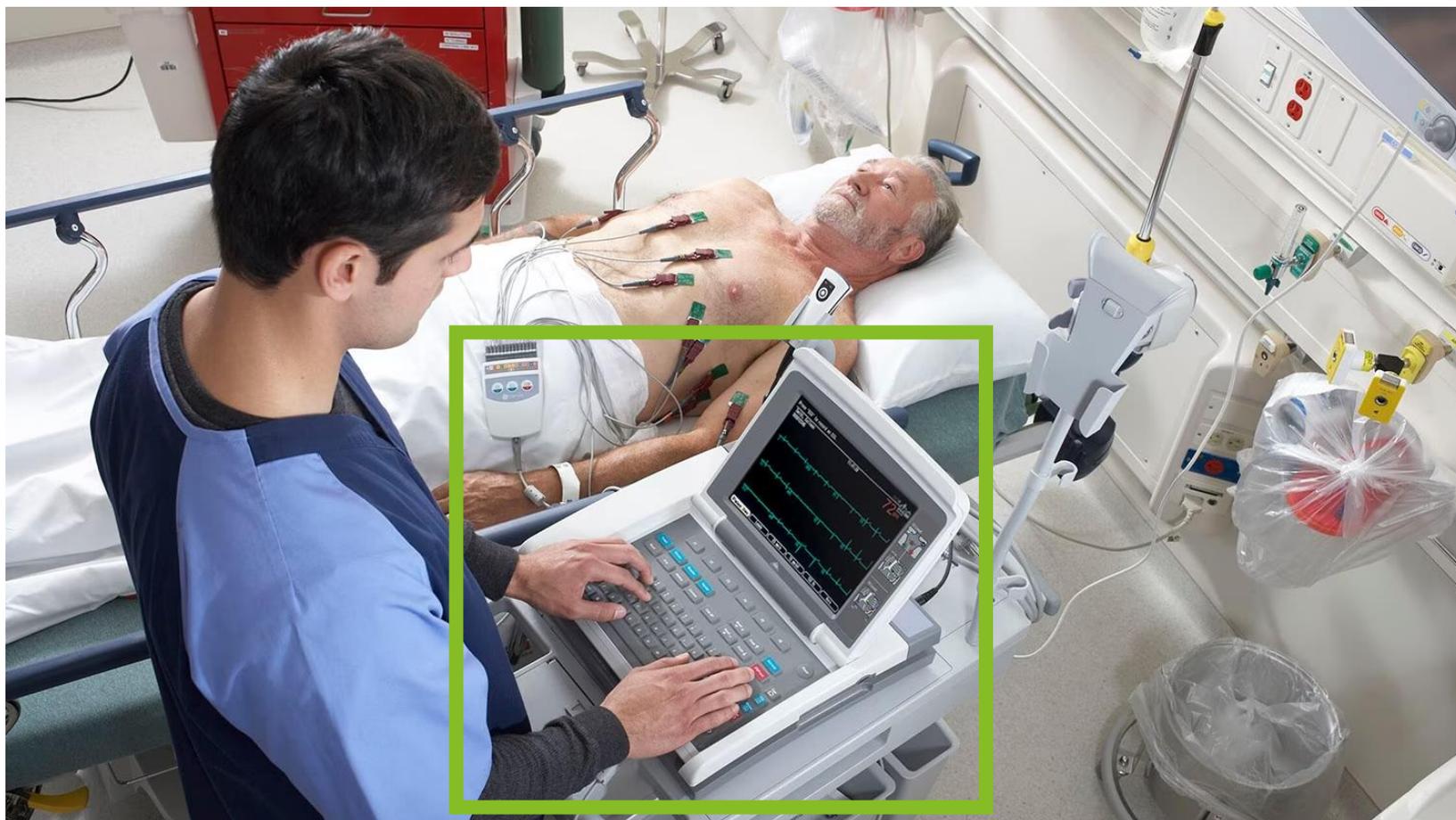
回答例の事例紹介

視聴者の皆様は自社製品・サービスについてかんがえてみましょう！

インド市場のニーズに合わせて商品のカスタマイズを行った、医療機器メーカーA社の携帯型心電計の事例をもとに回答内容を例示します

※回答例はすべてフィクションです

A社は心電計をインドの農村部に販売しようと試みた



自社製品による開発課題解決

製品やサービスは顧客のペイン(課題や悩み)を解決しています。それでは、日本(先進国)と途上国とでは、解決できる課題(自社の製品のターゲット層/アプローチ先)にどのような類似性や相違点があるか考えてみましょう

	日本(先進国)	途上国
誰の課題か (ターゲット)		
どのような場所/時に 起きているか (ロケーション/ タイミング)		
どのような課題か (ペイン)		
自社製品でどのよう に解決できるか (ソリューション)		

自社製品による開発課題解決

製品やサービスは顧客のペイン(課題や悩み)を解決しています。それでは、日本(先進国)と途上国とでは、解決できる課題(自社の製品のターゲット層/アプローチ先)にどのような類似性や相違点があるか考えてみましょう

	日本(先進国)	途上国(インド)
誰の課題か (ターゲット)	<ul style="list-style-type: none"> ● 比較的大きな病院に勤務している医師 ● 心電図検査に関する専門性を持つ医師 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方の病院/診療所で勤務している医師 ● 訪問診療を行う医師 ※インドでは病院が遠く、自ら病院に行ける人も少ないため
どのような場所/時に 起きているか (ロケーション/ タイミング)		
どのような課題か (ペイン)		
自社製品でどのよう に解決できるか (ソリューション)		

自社製品による開発課題解決

製品やサービスは顧客のペイン(課題や悩み)を解決しています。それでは、日本(先進国)と途上国とでは、解決できる課題(自社の製品のターゲット層/アプローチ先)にどのような類似性や相違点があるか考えてみましょう

	日本(先進国)	途上国(インド)
誰の課題か (ターゲット)	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の医師、経営陣 ● 訪問看護の医師、看護師、経営陣 ● 介護施設の医師、看護師、経営陣 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の医師、経営陣 ● 訪問看護の医師、看護師、経営陣
どのような場所/時に 起きているか (ロケーション/ タイミング)	<ul style="list-style-type: none"> ● 既に使っている心電計を買い替えたい ● 新設の病院/訪問介護企業/介護施設ができる際に、機材をそろえたい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農村部の村 ● 医療施設から離れている場所 ● 医療施設の資金が十分でない ● 心電図がなく、使ったこともない
どのような課題か (ペイン)	<ul style="list-style-type: none"> ● 心電図を取りたいが心電計が壊れた、心電計がない ● 心電計で心電図を取りたいが、家/施設から出られないため、取れない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心電図を取りたいが心電計がない ● 心電図を取りたいが病院や医療施設がない/近くにない ● 心電図を取る行為が広まっていない
自社製品でどのよう に解決できるか (ソリューション)	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯型であるので、持ち運んで心電図を取ることができる ● 携帯型であり導入費用が安いため安価に提供できる ● 携帯型であるので、設置が安易に利用である 	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯型であるので、持ち運んで心電図を取ることができる ● 携帯型であり導入費用が安いため安価に提供できる ● 携帯型であるので、設置が容易である

心電図を使うのは誰？

心電図の重要性すら知らないことも

自社製品による開発課題解決(回答例)

製品やサービスは顧客のペイン(課題や悩み)を解決しています。それでは、日本(先進国)と途上国とでは、解決できる課題(自社の製品のターゲット層/アプローチ先)にどのような類似性や相違点があるか考えてみましょう

	日本(先進国)	途上国(インド)
誰の課題か (ターゲット)	<ul style="list-style-type: none"> ● 比較的大きな病院に勤務している医師 ● 心電図検査に関する専門性を持つ医師 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方の病院/診療所で勤務している医師 ● 訪問診療を行う医師 ※インドでは病院が遠く、自ら病院に行ける人も少ないため
どのような場所/時に 起きているか (ロケーション/ タイミング)	<ul style="list-style-type: none"> ● 精密検査を必要とする患者の診察 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断 インドでは所得水準が低く、病気が重くなるまで病院に行かない人が多い。これに対して健康診断により病気の早期発見を行うことが望まれている
どのような課題か (ペイン)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方病院や比較的設備が整っていない病院から送られてきた患者に対して検査を行う必要があり、そこでの一次検査で検知できなかった異変について精緻な検査を行うことが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師といえど、専門医ではなく、必ずしも心電計の複雑な操作はできない ● 訪問診療をするため、持ち運びをする必要がある
自社製品でどのよう に解決できるか (ソリューション)	<ul style="list-style-type: none"> ● 誤診や異変の見落としをしない高精度の製品を提供することで、医師による精密な検査を可能にする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰でも直感的で操作しやすい機器を提供することで、専門医でない医師でも容易に心電計を取り扱うことを可能にする ● 小型でも精度が高いポータブル心電計を提供することで、医師は訪問診療時にも心電図検査をすることができる

先進国と途上国のギャップ(1/2)

日本や先進国で使われる環境や条件、ニーズと途上国のそれとはどのような違いがあるでしょうか。自社の製品に係る項目だけかつ想像で構わないので、考えられるギャップを考えてみましょう

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題		
求められる性能		
自然環境 (気候天候等)		
製品の使用に係る 設備/インフラ		
好みの傾向 (デザイン、趣向等)		
法規制		

先進国と途上国のギャップ(1/2)

日本や先進国で使われる環境や条件、ニーズと途上国のそれとはどのような違いがあるでしょうか。自社の製品に係る項目だけかつ想像で構わないので、考えられるギャップを考えてみましょう

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本では健康診断の習慣があるため心臓病の早期発見が可能であるが、インド農村部では病院が近くないため症状が悪化するまで病院へ行かない。このため、早期発見を行い、治癒の可能性を高める必要がある 	
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではできるだけ精密な検査が求められるが、インドでは健康診断時の異常が発見できる程度の精度 	
自然環境 (気候天候等)		
製品の使用に係る 設備/インフラ		
好みの傾向 (デザイン、趣向等)		
法規制		

先進国と途上国のギャップ(1/2)

日本や先進国で使われる環境や条件、ニーズと途上国のそれとはどのような違いがあるでしょうか。自社の製品に係る項目だけかつ想像で構わないので、考えられるギャップを考えてみましょう

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 心電図検査の普及(健康診断の習慣化、健康診断ができる病院の建設、医療スタッフの教育) 	<p>本事業でカバーすべきか？</p>
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> ● 高精度な検知は不要で最低限の精度が保証できる性能 	<p>具体的に必要な精度は？</p>
自然環境 (気候天候等)	<ul style="list-style-type: none"> ● インドの場合国土が広く地域により気候が大きく異なる。乾燥地域や標高の高い地域は日本にはない 	<p>インド全土に広げる必要はあるか、具体的にはどのような気候条件に対応する必要があるか？</p>
製品の使用に係る 設備/インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ● 電力供給が安定していない 	
好みの傾向 (デザイン、趣向等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 使いやすさ、普及を最優先にした低価格 	
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本には認可制度があると思うが、インドは不明 	

先進国と途上国のギャップ(1/2)(回答例)

日本や先進国で使われる環境や条件、ニーズと途上国のそれとはどのような違いがあるでしょうか。自社の製品に係る項目だけかつ想像で構わないので、考えられるギャップを考えてみましょう

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> 日本では健康診断の習慣があるため心臓病の早期発見が可能であるが、インド農村部では病院が近くないため症状が悪化するまで病院へ行かない。このため、早期発見を行い、治癒の可能性を高める必要がある 	
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではできるだけ精密な検査が求められるが、インドでは健康診断時の異常が発見できる程度の精度 	
自然環境 (気候天候等)	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではあまり発生しない砂嵐がインドでは定期的起きるため砂埃が多い 	
製品の使用に係る 設備/インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 日本の病院は電気の問題はないが、インドでは病院（診療所）でも電気が通っていないことや、また電気が通っていても電圧が不安定であったり、停電が頻発する 	
好みの傾向 (デザイン、趣向等)	<ul style="list-style-type: none"> 日本で専門医が多く心電計に高性能な機能を求めるが、インドでは専門医が少なく医師は心電図検査だけをしているわけではないので、シンプルなデザインや単純な操作性など、使いやすさが重視される 	
法規制	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器としての認証を得る必要がある 	

先進国と途上国のギャップ(2/2)

一方で、途上国市場と先進国の市場には共通点もあります。どのような点で共通点があるかを考えてみましょう。

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題		
求められる性能		
自然環境 (気候天候等)		
製品の使用に係る 設備/インフラ		
好みの傾向 (デザイン、趣向等)		
法規制		

先進国と途上国のギャップ(2/2)

一方で、途上国市場と先進国の市場には共通点もあります。どのような点で共通点があるかを考えてみましょう。

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本では健康診断の習慣があるため心臓病の早期発見が可能であるが、インド農村部では病院が近くないため症状が悪化するまで病院へ行かない。このため、早期発見を行い、治療の可能性を高める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心臓病は死因の1つであり早期発見・治療が必要である点は日本もインドも共通
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではできるだけ精密な検査が求められるが、インドでは健康診断時の異常が発見できる程度の精度 	
自然環境 (気候天候等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではあまり発生しない砂嵐がインドでは定期的起きるため砂埃が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
製品の使用に係る 設備/インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の病院は電気の問題はないが、インドでは病院（診療所）でも電気が通っていないことや、また電気が通っていても電圧が不安定であったり、停電が頻発する 	
好みの傾向 (デザイン、趣向等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本で専門医が多く心電計に高性能な機能を求めるが、インドでは専門医が少なく医師は心電図検査だけをしているわけではないので、シンプルなデザインや単純な操作性など、使いやすさが重視される 	
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療機器としての認証を得る必要がある 	

先進国と途上国のギャップ(2/2)

一方で、途上国市場と先進国の市場には共通点もあります。どのような点で共通点があるかを考えてみましょう。

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 心電図検査の普及(健康診断の習慣化、健康診断ができる病院の建設、医療スタッフの教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化、高齢者に対する健康診断の普及。 途上国で高齢化は課題となるか？
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> ● 高精度な検知は不要で最低限の精度が保証できる性能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 故障が少ない
自然環境 (気候天候等)	<ul style="list-style-type: none"> ● インドの場合国土が広く地域により気候が大きく異なる。乾燥地域や標高の高い地域は日本にはない 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
製品の使用に係る 設備/インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ● 電力供給が安定していない 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
好みの傾向 (デザイン、趣向等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 使いやすさ、普及を最優先にした低価格 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本には認可制度があると思うが、インドは不明 	

先進国と途上国のギャップ(2/2)(回答例)

一方で、途上国市場と先進国の市場には共通点もあります。どのような点で共通点があるかを考えてみましょう。

	先進国と比較し、途上国の環境にはどのようなギャップがあるか	先進国と比較し、途上国の環境にはどのような共通点があるか
解決すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本では健康診断の習慣があるため心臓病の早期発見が可能であるが、インド農村部では病院が近くないため症状が悪化するまで病院へ行かない。このため、早期発見を行い、治療の可能性を高める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心臓病は死因の1つであり早期発見・治療が必要である点は日本もインドも共通
求められる性能	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではできるだけ精密な検査が求められるが、インドでは健康診断時の異常が発見できる程度の精度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断時に求められる心電計としての性能は、日本もインドも同程度
自然環境 (気候天候等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本ではあまり発生しない砂嵐がインドでは定期的起きるため砂埃が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
製品の使用に係る 設備/インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の病院は電気の問題はないが、インドでは病院（診療所）でも電気が通っていないことや、また電気が通っていても電圧が不安定であったり、停電が頻発する 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
好みの傾向 (デザイン、趣向等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本で専門医が多く心電計に高性能な機能を求めるが、インドでは専門医が少なく医師は心電図検査だけをしているわけではないので、シンプルなデザインや単純な操作性など、使いやすさが重視される 	<ul style="list-style-type: none"> ● N/A
法規制	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療機器としての認証を得る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療機器認証を得る必要がある点は日本もインドも共通

製品の開発方針

現地のニーズに合わせるため、御社の製品/技術/サービスを提供するにあたっての構成要素をどう開発していけばいいでしょうか。日本向けのママ、現地に向けて社内で再設計、外部リソースの活用など開発の方針を考えてみましょう。

	日本向けの 構成要素再利用	現地(途上国)に合わせた 再設計	他社/現地からの調達 (外部リソースの利用)
(構成要素を記載)			

製品の開発方針

現地のニーズに合わせるため、御社の製品/技術/サービスを提供するにあたっての構成要素をどう開発していけばいいでしょうか。日本向けのママ、現地に向けて社内で再設計、外部リソースの活用など開発の方針を考えてみましょう。

	日本向けの 構成要素再利用	現地(途上国)に合わせた 再設計	他社/現地からの調達 (外部リソースの利用)
操作盤		● シンプルでだれでも使用できる操作盤を設計	● 設計図をもとに 現地企業に製造を委託 し、コストを低減
バッテリー/電源			
ボディパッド			
ハードウェア	● 小型で高性能な心電計 を転用	● 筐体部分は 砂埃に対応 できるように、 堅固 に設計	● 将来的には 現地生産 を行い、コストのさらなる低減を行う
ソフトウェア			

製品の開発方針

現地のニーズに合わせるため、御社の製品/技術/サービスを提供するにあたっての構成要素をどう開発していけばいいでしょうか。日本向けのママ、現地に向けて社内で再設計、外部リソースの活用など開発の方針を考えてみましょう。

	日本向けの 構成要素再利用	現地(途上国)に合わせた 再設計	他社/現地からの調達 (外部リソースの利用)
液晶		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師で一定の知見があれば心臓病の判断が可能な液晶へ再設計 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単純な投影が可能な液晶を現地調達
操作 (ボタン)		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師で一定の知見があれば操作可能なボタン配置へ再設計 	<p>タッチパネルでは反応が悪い/壊れやすいことを想定し、物理ボタンを採用</p>
筐体	<ul style="list-style-type: none"> ● バッテリーを含むポータブル性能を持つ筐体を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防塵・防水や振動への耐久性を向上させた筐体へ再設計 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現地での生産を視野に入れた部品の簡素化、基盤の簡素化を検討
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ● 心電図計のベースとなるソフトウェア (計測値の算出等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 計測部分に砂や塵などの不純物や振動など外部要因が入り込んだ場合でも一定の心電図が担保されるようなソフトウェアへ再設計 ● ポータブルによる稼働が主となるため、ソフトウェア稼働の省電力化 	<p>現実的か？ 筐体の保護に力を入れた方が廉価に作れないか</p>

製品の開発方針(回答例)

現地のニーズに合わせるため、御社の製品/技術/サービスを提供するにあたっての構成要素をどう開発していけばいいでしょうか。日本向けのママ、現地に向けて社内で再設計、外部リソースの活用など開発の方針を考えてみましょう。

	日本向けの 構成要素再利用	現地(途上国)に合わせた 再設計	他社/現地からの調達 (外部リソースの利用)
操作盤		<ul style="list-style-type: none"> ● シンプルでだれでも使用できる操作盤を設計 ● 物理ボタンを採用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計図をもとに現地企業に製造を委託し、コストを低減
バッテリー/電源		<ul style="list-style-type: none"> ● 電源がないため電池式で再設計 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池は現地で手に入れられるものを使用(継続してしよういただけるよう配慮)
ボディパッド	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本で使用している健康診断用パッドを転用 		<ul style="list-style-type: none"> ● 継続使用のため、現地企業と提携して生産を行い、現地調達を可能にする
ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> ● 小型で高性能な心電計を転用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 筐体部分は砂埃に対応できるように、堅固に設計 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的には現地生産を行い、コストのさらなる低減を行う
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本向け製品で開発したシステムを転用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定言語のみ現地語に修正 ● 音声の読上げ機能付き 	

JICAコンサルタントによる支援

途上国ビジネスのカギは現地に合わせた事業開発であり、現地の市場調査やニーズ確認調査が重要となります。中小企業・SDGsビジネス支援事業ではJICAコンサルタントが皆様の調査をサポートします

調査支援の一例

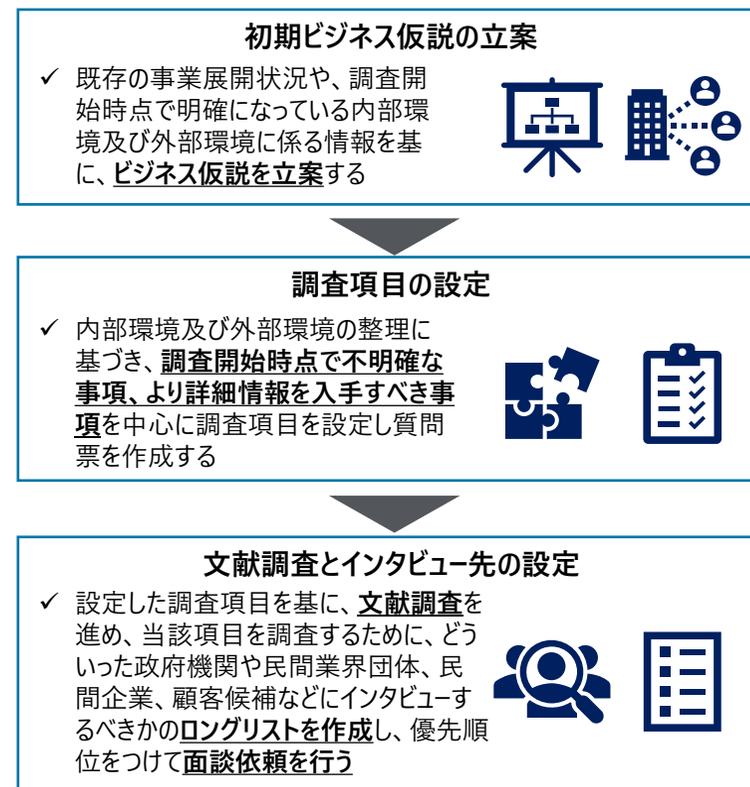
初期条件の整理



現状分析の実施

内部環境	4P分析	調査分析項目： 各事業概要の整理/各事業の状況把握
	Company	
	Competitor	調査分析項目： 国内外の主要プレイヤーの把握
	Customer	
外部環境	政治的要素	
	経済的要素	調査分析項目： 市場シェア等の調査及び分析
	社会的要素	現地パートナー候補や業界団体の把握
	技術的要素	
	現地パートナー候補	
	ビジネス分野体系・動向	調査分析項目： 各分野動向の分類
	法規制	調査分析項目： 現地ビジネス環境の調査及び分析
	活用制度	

調査計画の具体化



途上国にはどんな課題があるのか？それがどんなビジネスにつながるのか？
途上国ビジネスを検討するための参考情報を、JICAのHPにて順次公開中です！

途上国の課題／ビジネスニーズを知るために

【コンテンツ概要】

■ <公開中> 途上国ビジネスを理解する

開発途上国でSDGsに貢献できるビジネスを展開するコツやヒントをお届けします。

■ <準備中：近日公開> 途上国の課題を理解する

途上国にはどんな課題があって、それがどんなビジネスニーズにつながるのか。ビジネス展開上のポイントは何か。

JICAの課題別事業戦略であるグローバルアジェンダごとにご紹介します。

■ <順次公開中> 進出国を検討する

JICA現地事務所からの生の情報や、各国でのJICAの活動をご紹介します。

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/subject/index.html



まとめ

開発途上国でのビジネス支援の実績や現地の開発課題に関する情報が豊富なJICAによる「中小企業・SDGsビジネス支援事業」の活用が成功の近道です

現地ニーズ・現状 に合う製品

- 日本で売れているいい製品だから開発途上国にそのままもっていけば売れる、は誤り
- 現地には現地の課題や環境があるので、それに合わせた製品を展開することが重要

ニーズ/市場調査

- 現地の課題や環境は日本には見えてこない
- 偏見やイメージではなく、実際に現地を訪問し、自身の目で正確な情報を調査することが必要

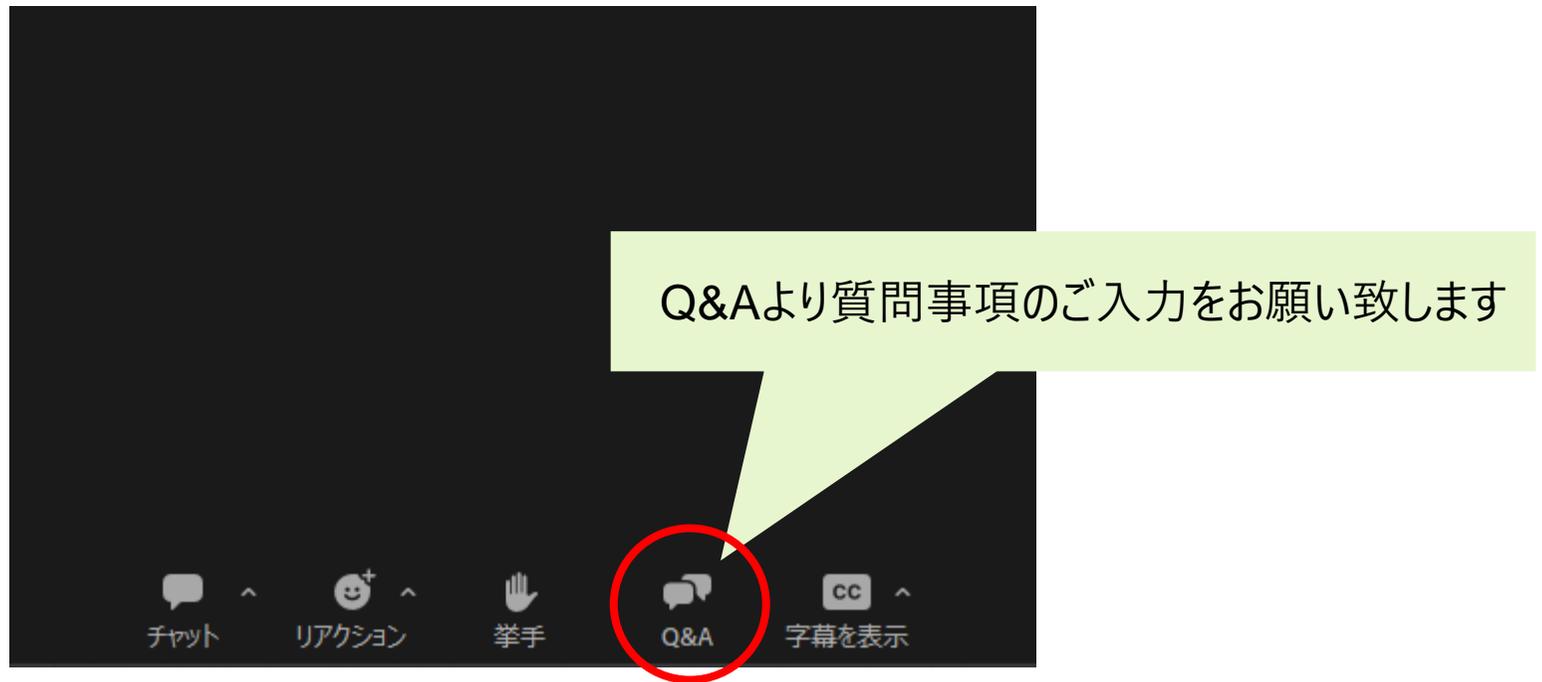
途上国に強いJICA

- JICAは開発途上国に現地事務所を持ち、多様な国の多様な開発課題に関する情報が集まる
- 中小企業・SDGsビジネス支援事業では、JICAの情報やネットワークを活用することが可能

蛇の道は蛇。

▶ **開発課題や現地の情報に精通**したJICAが現地事務所やJICAコンサルタントと連携し、企業様の**調査実施を側面支援**する中小企業・SDGsビジネス支援事業の活用がおすすめ！

- Q&A



デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ グループ 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市に約1万7千名の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト（www.deloitte.com/jp）をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数 を指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバー ファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバー ファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務、法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約415,000名の人材の活動の詳細については、（www.deloitte.com）をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、DTTL、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファームおよびそれらの関係法人が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。

